

## GIII-Vol.151

武内明子展 空<sup>うた</sup>っぽと詩

会 期：2023年8月3日（木）－10月9日（月/祝）

会 場：熊本市現代美術館 ギャラリーⅢ・井手宣通記念ギャラリー

時 間：10:00－20:00 [入場無料]

休館日：火曜日

主 催：熊本市現代美術館

[熊本市、公益財団法人熊本市美術文化振興財団]



熊本市出身で、東京や各地での活動を経て、2020年に熊本県上天草市に居を定めた画家・武内明子。不知火海を望むのどかなまちで、豊かな自然に包まれながら、日常をみずみずしい色と形で描き出しています。本展は、天草で暮らし始めた武内の新作・近作を発表します。

武内が作品を生み出すときに大切なふたつのこと、それがタイトルにある「空っぽ」と「詩」です。「空（から／くう）」であることは、さまざまな可能性を呼び込むこと。空である身体は、自らを超えて新しい世界と出会うための扉を開くことができる。そして「詩」は、描出した色や形、そしてタイトルなど空から生み出されたものです。武内は「Y字路のように、一方から絵がやってきて、もう一方から言葉がやってきて、出会った時に一つの道になって完成に向かっていく」と語っています。自らを空っぽの器にして、とりまく風景や支持体にも身をゆだねる。対話するように絵筆を動かしていると、空から鳥が舞い降りてそっと枝にとまるように言葉がやってくる。すると、絵と言葉は手を取り合って完成に向かっていくのです。武内の「空」と「詩」の伸びやかな出会いが、作品と出会った人に柔らかな連鎖をもたらすことを願っています。

**武内明子（たけうち・あきこ）** 画家

1983年 熊本市生まれ。日々の風景をみずみずしい色や形に描き出す絵画作品を国内外で発表。

主な展覧会に、「文無日記/風にねんかかる」（2015、つなぎ美術館）、「しらないをあさくって」（2010、不知火美術館）、野見山暁治との二人展「遠くつながる この空と」（2021、さんかく舎）。

画家・麻生知子と日本全国を旅して、作品を制作し発表する《ワタリドリ計画》の活動に、「奈義の旅」（2022、奈義町現代美術館）、「MOT サテライト 2020」（2021、東京都現代美術館）、「絵から旅する大原⇄岡山」（2020、大原美術館）など。その他、不知火美術館・図書館「こども絵本のいえ」壁画、つなぎ温泉四季彩のモノレールラッピングデザイン等、空間や風景の中に描く多様な表現に取り組んでいる。

**関連イベント****武内明子 アーティストトーク****8月13日（日）14:00～15:00**

空っぽになって絵を描くこととは？ 武内の創作にそっと触れるトーク。

会場：アトラボマーケット

定員：25名 参加無料 予約不要

**ワークショップ****「空の詩-わたしとあなたとまんなかの色-」****9月17日（日）13:30～15:30**

絵の具の箱には入っていない色を作りながら、色のことをじっくり考えます。

会場：アトラボマーケット

定員：10名 中学生以上 参加無料 要申込み

\*お申込み方法は、ホームページにてご確認ください。

**主な出品作品**

武内明子《ちいさな睦へ》2023年



武内明子《空のプール》2023年



武内明子《ライブラリー》2022年



武内明子《ウチノウズラ/柵》2022年



武内明子《ハナミノ》2023年



武内明子《作り話》2023年